

平成 22 年 6 月 2 日

22 年度第 2 回（3 事業所合同）運営推進会議議事録

記録 原子 吉田

参加者 保健福祉課課長 興田 様
介護福祉係長 笠原 様
包括支援センター長 釣谷 様
包括支援センター 谷口 様
保原 様
坪田 様
七飯消防署予防課長 青山 様
大沼小学校校長 和高 様
軍川小学校校長 大岡 様
大沼中学校校長 小沢 様
大沼保育園園長 太田様
函館信用金庫七飯支店支店長 砂原 様
大沼観光協会 金本 様
日乃出食品株式会社代表取締役社長 工藤 様
特別養護老人ホームゆうりん 赤羽根 様
ケアハウスフェニックスコート 佐藤 様
あかまつの里 岩佐 様
ななえ新病院医療相談室 佐藤 様
七飯町商工会女性部 宮原 様
七飯町認知症を支える会会長 小山内様
七飯町介護者と共に歩む会 斉藤様
本町地区町内会連合会会長 小林様
西部鳴川町内会副会長 小林 様
鳴川協和会町内会 鹿内様
緑町町内会長 首藤 様
緑町町内会副会長 松木 様
緑町町内会副会長 岡田 様
緑町民生委員 天満 様
緑町保健福祉部理事 佐藤 様
緑会 田本 様
長寿会 伊藤 様
鳴川ご家族：佐々木様
緑町ご家族：中島様
おおぬまご家族：藤野様・杉本様
ハッピードウナン：原子・吉田・山村・

ハッピードウナンⅡ：伊倉・久貴谷・若狭
ハッピーおおぬま：辻合・鈴木・田中
はっぴー共生型：岡田
桔梗事務所：田村

山村 本日はお忙しい中運営推進会議にお集まり頂きありがとうございます。・・・

それでは中村の方より進めて参りたいと思います。

中村 はい、それでは冒頭でここに「恍惚の人」と書かれているのですが、すごくわかりやすく認知症を理解していますので、5分程度なので、それを見てから本題に入りたいと思います。

はいありがとうございます。それでは始めさせていただきます。運営推進会議ということで今見ていただいたのが認知症の方の行動というか、私達グループホームにいらっしゃる方達がみんなこういう思いの中で生活しています。そのことをご理解願いたく見て頂きました。そして「手紙」があると思いますが、これはご本人が子ども達に書いた手紙で自分の思いを表現しています。今、歌も出していますので後でちょっとお読みになってもらえたらとつけたものです。自分のことを皆さんに伝えることができない、これを歌にしたり、このように自分達がいて、私達の思いを解って欲しいと言う時代になってきています。認知症があったとしても、脳梗塞で麻痺があったとしても普通に生活をしていて皆様と愛わりが無いんですよと言う事を皆さんに呼びかけています。それにあたって、認知症を正しく理解して頂きたいが為にもあくまでも提案ですが、認知症サポーター養成講座という形で、7月12日（月）当日の予定表というのを付けさせていただいているのですが、できれば、10時30分から、私達仲間が一昨年旭川で行方不明になり、後で出て来るのですが、旭川市でネットワークがあり、消防、警察、色々なネットワークの方々が探してくれたのですが、この方はグループホームの300m先の林の中で1ヶ月後に亡くなって発見されました。1ヶ月、毎日皆の協力で探したのですが、見つからずお亡くなりになってしまいました。色々な人に出会っているのですが、この方は、ビク病という病気を持っていて、つんのめるような歩き方で、転んで、血だらけになっている姿を見て、近所の人「気持ち悪い」と拒絶してしまいました。水が飲みたくて、「水を下さい」と助けを求めたにもかかわらず、誰も手を差し伸べなかった。そして300m先の林の中で倒れて、グループホームの職員も、警察も、地域の人も、家族も色々な協力をしてくれましたが見つかりませんでした。見つからないで、亡くなってしまったと言う事があって、この事例は市や道議会でも大きく取り上げられました。それが去る2年前のことでした。もう2年経ってしまっていて忘れてしまっている。私達の仲間が亡くなっているのに忘れちゃいけない。と言うことでしっかりと認知症の正しい理解を、地域の方々にご協力を願って、できれば一緒に勉強をして行きたい。認知症のちょっとした簡単な正しい理解をしていただくため、サポーター養成講座というものがあります。サポーター養成講座の水準とか概要の資料を付けさせて頂いております。お家に帰ってから興味のある方は是非お読みになって下さい。今回、私達の仲間である、旭川の小原ですが、彼も来てくれて旭川の事例をお話ししてく

れます。そしてサポーター養成は、全国団体協議会の会長和田行男が来ますので、みなさんに面白おかしくお話をしていただこうと思います。それから、北海道グループホーム協議会の会長をやっております宮崎という者に来て頂いて、北海道の認知症の取り組みを発表して頂ければと考えています。その後、お昼も皆さんと一緒に、おにぎりを作ったり炊き出しみたいなことをして午前中はそれくらいにして、そして実際に去年、私共2月に大牟田市の池田課長に来て頂いて勉強会を行ったんですけども、この中にも参加して頂いた方が何名かいらっしゃいます。福岡では23校区あるんですが、いつも徘徊模擬訓練とお声かけ運動を行っていて、「困っている人がいたら声をかけよう」そんなことを七飯町でできたらいいなあと考えています。ただ七飯町では認知症のみならず、子どもからお年寄りのお声かけ運動により、昔の地域の人々のかかわりに似た地域を作っていきたいと考えています。高齢者は1973年以降ずっと増え続けて独居の高齢者が増えています。地域の方に声を掛けてもらえない、1人で買い物ができない、1人で入浴ができない高齢者を地域皆で、お互いがサポーターになって支え合える環境を作ればいいなと考えています。

うちも今、2月から学童保育をやっていますが、子どもが帰ってくることによって、おじいちゃん、おばあちゃんが喜び、「ただいま」という声を聴いて「何かしてあげたい」と言う気持ちが元気に繋がっています。

先日、うちのスタッフがSOSネットワークの模擬訓練エリアを実際に歩いて見えています。

1時間40分ばかり雨の中歩いていた時の状況を聞いてみます。

田村 1時間40分歩いて、3人しか合いませんでした。

中村 1〜2人しか歩いていませんでした。

中村 こんな所に認知症の人が歩いていても見つからないと思います。

実際に庭先にいた子どもに挨拶をすると、そっぽを向かれてしまいました。そんな状況なので、今の地域を変えて行く必要があると思います。

“こんにちは、ごくろうさんができる町づくり” そのように考えてましたので宜しくお願いします。

興田様 「こんにちは、ご紹介頂きました興田と言います」概略、詳しいことにつきましては、谷口から説明させていただく事にしまして、そもそもことの発端なんですけども、今、中村社長が話したように、地域が認知症を支えるということに関して、日常的に声かけ運動が必要なのかなと思う。例えば、認知症じゃないかなと思われる人に声をかけるちょっとした勇気があればその方が行方不明にならずに済む。その所を通り過ぎちゃうと行方不明になってしまうことがあるので、日頃から声をかけようということをやりたいと言うことです。それについては非常に良いことでしょう。行方不明でもバックアップしていきますよと言うことなんです。もう一つ声をかけた後に、あるいは声をかけられなくて居なくなってしまう、何処に行ったか解からなくなってしまう時に、今、函館地区 SOS ネットワークがあって、家族または関係者の方が、警察の方に連絡が入ると、警察からタクシー協会、FM いるかに呼びかけるんですね、タクシー協会にもその人の居なくなった時の特徴をお話をして、見かけた方は警察へ連絡して下さい、あるいはFM いるかでは呼びかけます。ただ、いかんせんこれの欠点が、七飯町連絡が入っても、そのいなくなった地域の人にうちは連絡する術がないんです。1番地域の事を解かっている人に連絡しようと思っても、連絡する術がない。非常に致命的な欠陥だと思ったものですから、中村社長の

お話を聞いた後に、大牟田市が全国の先駆的なことをやっていると言うことで、それを学びまして、新聞にも1週間くらい前に大きく取り上げられましたが、七飯町の安心ネットワークを作る。簡単に言いますと、町民が役場にメールの登録をして頂きます。そして行方不明者の発生した時に携帯電話のメールで何時何分頃、何処付近で、こういう特徴の方が居なくなりましたということを配信する。あくまでも個人を特定するのではなく、特徴を配信する。そうすることによって発見する目が増える。その時に民間の方々に捜査を依頼することはありません。あくまでも、日常生活の延長線上でこういう人を見かけたら警察の方に連絡して下さい。そうすることによって、中学生、高校生が賛同できる。本当は一歩進んで声をかけるのは理想なんですけども、かけるのには勇気がいる。勇気を持って欲しい。12日の午前中に、サポーター養成講座をやります。その後に模擬訓練をし、ネットワークがきちんと機能するかどうか、警察、消防にも協力していただき、地域の中で不幸なことが起きないように、地域の中でより多くの人の目が必要。このような形のものを作りたいということで、このような要綱を作らせて頂き、明日からメール登録を受け付けます。合わせて、ご家族の方がそういう可能性がある場合は事前登録して下さい。登録することによって、その人の前に居た場所、あるいは、日常的にどういう行動をしていたか、当然探す範囲が限定されてきます。ただ、認知症の人はそれに関わらず、どんどん行ってしまう場合があります。とにかく発生してからどれくらい短い時間で配信できるか、それと日常的なことについては、企業の方も来ていますし、例えば企業の方が車の配送している時に、そういう方を見かけたら教えて下さい。あるいはお店を営んでいる方については、そういう人らしい人が店に来た時に連絡して下さいとか、色んな意味で協力していただける ことが沢山あります。これは町民一人ひとり、企業、皆さんが参加することによってこんなことが無いようになりますので是非そのためにも、皆さんにご協力頂きたい。簡単に申し上げますと、午前中にサポーター養成講座ということをやらせていただいて、高齢者に対する理解、声のかけ方をお勉強していただいて、午後から実際に徘徊者を2人くらい出して、声をかけていただくと言うのが一つの目標としています。もう一つは、午後からうちは、その時に徘徊者が発生したということで、携帯の登録者に対してメール配信をする。そうするとその方々が、例えば買い物に行ったとか、散歩したとか、限定された時間の中で発見したら連絡を頂くという検証をします。その時に不備があれば新たにまた、対策を練って行くという感じ形にしたいと思います。当日は来るか来ないかは別として、函館市、北斗市、鹿部町、森町に声をかけたいと思っています。それは何故かと言えば、例えば七飯町に住んでいる方が、以前旧大野町に住んでいたということになると、もしかすると、大野に言っている可能性があります。七飯町で行方不明になって江別で見つかったという方もいらっしゃいますから、そういう意味では行動範囲が広まってくればですね、当然七飯町だけで対処できなくなりますので、このようなネットワークを、函館市、北斗市、鹿部町、森町までやっていただければ、範囲が広く、消防は鹿部、七飯町、北斗市は一つの消防に入っていますから、消防の方は少なくとも情報は共有できるが、自治体の方はまだまだそれに至っていませんので、できれば他の自治体にも声をかけて是非お話ししたいと考えています。そのためにも成功するか、しないかは町民の皆さんの協力がなければ出来ませんので、是非当日も多くの参加を頂いて、養成講座と合わせて成功させたいなというふうに考えていますので、よろしくお願い致します。

谷口様 「地域包括支援センターの谷口です」大体は、今の課長の方からご説明があった部分にな

るんですけども、皆様のお手元にカラーですけども、"七飯町高齢者安心ネットワーク事業 七飯住み続け隊" メール登録者募集というチラシがあるかと思いますが、課長の方から説明があった、安心ネットワークの概要について書いてあります。その方にですねサポーターということでメールアドレスを七飯 HP から登録して頂くとう事業を明日から始めます。直接 HP から登録して頂く、または、できれば QR から入って頂くどちらの裏に役場福祉課または、各出張所で登録の説明をさせていただきますので宜しくお願いします。登録が増えると情報配信した時に地域の方々からの情報が得やすいのかなと思います。実際なかなか七飯町の街中を歩いても歩いている方が少ないと思います。ただ、こういうことに登録していただいて万が一の時には、皆様がサポーターになって頂くことによって、本当に日常生活の範囲以内で構わないので、買い物の途中とかで、町を歩いているときにそういう方がいたら、情報提供にむすびつけるような形でネットワーク事業の方を進めて行きたいと思っておりますので、一般の方には、こういう登録という形でさせていただきますし、町内の企業の方にも直接、できる範囲でお願いに回って、企業としても従業員の方に"七飯住み続け隊"を広めて頂いて、そこで仕事の中でできる範囲で協力していただけるようお願いして行きたいので今後とも宜しくお願いします。

中村 と、言うことで七飯町さんはそうっておきまして、うちの方は、7月12日にこの形で行ないたいなと思っています。SOS ネットワークをご存知ですか？という紙ですが、実際に使ってください。私ども、北海道認知症グループホーム協議会で作りました。ここに警察の名前とか載っていますが、警察の承諾を受けたものですので是非有効活用して下さい。逆に、町内会の方で入用であったら欲しい枚数をお届けします。あとこの、連絡票は警察へ行って書く紙です。

当日の予定、サポーター養成講座（認知症の正しい理解）をやります、できれば、一日の流れで参加して頂ける方の募集を今週、明日からでも募集を始めさせていただきます。各企業さん、団体の方にこういう申込書が入っていると思いますが、今来て頂いている企業さんをお願いをして、厚生労働省の方でオレンジリングを出しているのですが、60分講習を受けた方にお渡しします。これを皮切りに是非、子どもさん向けの DVD ありますので、私どもが出向きお話をさせて頂き、子どもさんのサポーターを養成できればと思っています。七飯町教育委員会にも是非お願いして、小、中、高みなさんにサポーターになっていただければなという願いがあります。文化センタースターホールでやりますので、200名から250名を集めたいと思います。徘徊者2名を地域のエリア内から探して頂き声をかけてくれたら（ありがとうカード）を渡したいと考えています。七飯町はあくまでもメール登録をして、今言ったようにやりましょうということです。実際に12日、こういう勉強をして皆さんに参加していただいて、サポーター要請講座を受けていただいてリングを持っていたら是非地域の中でこのような運動ができればなと思っています。そんな中でご意見をお聞かせ下さい

小林様 この SOS ネットワークは町広報の5月号に載せてその中に色々書いてあり、逆に今、認知症の立場から、ご本人も自分お名前すら言えない方もいらっしゃると思います。ご本人がわかるような名札を付けたり、本人のマーク、年齢など付ける事を町の方からご家族に徹底して頂かなければ、おそらく見つけたときに、何処のどなたかわからない。勿論連絡はいいんですが、ご本人が一番先に解かればいいんですよね。そこのご家庭にもご連絡が出来るわけだろうし、勿論、警察の方とかそう行った事もありますし。私は、そういったことが認識の

できるようなものを付けるのが一番だと思う。

青山様 家族で捜して暗くなってから消防に連絡が来た。早めに連絡をして欲しいというのが消防の希望でした。

和高様 何を話せばいいのでしょうか？

中村 子ども達に認知症を理解していただける余暇活動みたいなものをお願いできるということはどうでしょうか？

和高様 こども達は地域の中に守られている。昨日のあたりから不審者情報が流れてきていて、なるべく自分の方からは関わらない。用心をなささいという世の中になって来ていますので、家族の中での高齢者変化、そういう意味での学習というのは勉強になると思います。私としては、主旨とやることのギャップがあるので、もし、もう少し皆さんが説明されるのを聞きながらじゃあ学校で何ができるのか、PTA で何ができるのかなと言う事を勉強したいなと思っています。

中村 地域にこんなことをしてくれるとありがたいなという意見はありませんか？

和高様 無いわけではないですけども、そういうことが進んでいない現実があるんですよね、自己防衛、保護者ともそういう話はしているんですけども、なかなか地域を歩いても人に合わないの子ども達も、建物から建物まで車で運んでしまう。歩いている子どもも少ない、安心な所で遊んでいる。それが現実です。

中村 人が少ない、見てくれている。空間をどういかに地域で埋めていけばいいのか莫大にご相談ですけれど。

大岡様 今、子ども達に知らない人には声をかけるなど指導しているのが実際の所です、そこに子ども達がオレンジリングを付けたとして、知らない人に声をかけろと言う指導がストレートに行くかと言う事が自分の中で一番壁かなと思っています。もう一つはそちらの方から出張で前講座などをしてくれると言ってくれている、その60分の単位では小学校とは合わないなと思っています。もう一つ、地域の方が子ども達にどんなことをという問いかけがありましたけど、それについては、子ども達に対しても地域の人達が声をかけてくれるような地域になってくれたらなと思います。

小沢様 中学生も社会に守られている。小学校とは違って不審者が自分に危害を及ぼすか及ぼさないかを判断できる年齢なので声かけは可能であり、活動には参加できると思うが、理解するのに時間がかかると思います。PTA と相談してからになるでしょう。学校に持ち帰って職員に相談し、時間をかけて話し合っていきます。

中村 具体的な提案を持ってお伺いさせていただきます。

長内様 認知症家族の方を支援お話ししながら、ストレスを少しでも取り除き、情報交換しているキャラバンメイトも何人か取らせて貰っていますが、なかなか広まっていないです。認知症の方は元気な頃は散歩できますので地域の方に本当に理解して貰いたいと思っています。キャラバンメイト、SOS ネットワークが地域に広まっていければと願っています。私たちは協力していきたいと考えています。

砂原様 かばんを持って毎日3人は外動に出ているので、ネットワークでメールを頂ければ渡せると思います。また、宅急便、新聞配達の人達も声掛けするともっともっと増えるのでは無いでしょうか。

工藤様 配達、町内からのパートの従業員は結構いますので協力していきます。

校長先生のお話を聞いて感じたのですが、七飯に来て驚いたのは小学生の子ども達が皆自然

にこんにちとはと挨拶してくれた。自然が難しいし声をかけるのは難しいが続けて欲しいと思います。子ども110番 目配り、気配りを頂いて段々こういうのが進んで何かが起きると思います。

小林様 どう言う事を話せばいいのか、SOS ネットワーク取り組みについては理解できます。協力していくことはやぶさかではない。しかし、認知症と不審者の区別は難しく、地区町連として話し合いを持ったことはないで、町内会でどのようにしていくか話題として出てくると思うので何についてどう答えればよいか解からない。

鹿内様 皆関心があるので、地域にSOSをいかに伝えるかが重要。各町内会、町民、地区に関心を持たせるか、PR方法、連絡方法、町民にもっと広く関心を持たせるか、広報誌に載っても隔々までは見ない わかりやすいPRが必要 町の方でメール登録、退職後特に何もせずにいる退職者も多い 役場を退職前にはサポーター養成講座を受けて、その後登録すると思う。気構えと準備が必要だと思う。

中村 運営推進会議は大沼、鳴川、緑町、年6回 私共のホームのある地域で呼びし、させて頂いている

金本様 正直言いまして、以外に大変だと思います。ただ、大沼との温度差があるのでは？大沼にやりなさいと言っても、あの狭い地域で上と同じ事ができるだろうか？大沼は観光地であって、先日も家族連れで来ていて、お年寄りがいなくなった。ボランティアガイド、家族は交番、オレンジジャンパーを着て捜索した所、公園と通りの酒屋にいた。一見落ち着きましたが、温度差のある大沼でどうしたらいいか。大沼は大沼の方法でもいいんじゃないか。子どもは顔見知りだし、お年寄りの方もすぐに話が広まり、小規模地域のネットワーク（駅、バス停）ができています。

大田様 障害者教育で何が困っているか、どういう支援が必要か、はじめて気付く 地域にPRしていくことが1番の方法だと思います。保育は戸口から戸口、お母さん達が玄関から玄関まで送迎しています。草の根運動のように小さい所から発信していけたら素晴らしいし、できることから始めていくといいと思います。子ども達はかかしにでも挨拶します。

首藤様 会長をやっている首藤です
緑町は高齢者が多く、11月徘徊者があり町内会のかたの機転により徘徊者を自宅に連れて帰る手配をしたというグループホームの事例もあります。高齢化社会についてSOS大牟田市見学に参加する機会があり、非常に参考になりました。七飯町にもできたら安心できるし、色々カバーできると思います。1歩1歩でも進んで実践できれば協力できることは協力します。

伊藤様 名前の通り皆さんお世話になる方が多いのですが、声をかけあって家から引き出して、来る方でやっています。なかなか思う様に引きこもって来れない方を何とかして引っ張って来て、少しでも笑顔が見たいです。

天濱様 視点を絞ってやろうとしていること、やりたいことを明確にしていく事が必要だと思う。でもやればありがたいなと考えています。町がやらなければ、緑町は高齢者が多いので、町内会と施設の人との関わりながらとにかくやって行こうと思います。1歩でも2歩でも進み、町のバックアップを期待しています。

田本様 大変素晴らしい取り組みだと思います。実践したら素晴らしい町になると思う。
私の母、父も98.95 他人事ではない。1人でも多くの方が知っている事が大事なので

わかりやすい説明、ちらし等を用意されて、町内、函館市、北斗市、鹿部町、森町に対して、こういうことを取り組んでいますというPRが必要だと思います。PRしながら進めていけばよいと思います。 家族もお世話になるかも知れませんが宜しくお願いします

松木様 天濱さんが言いましたが、町内会の立場として、一本にならないとなかなか難しい。これを進めていく為には、町内で立ち上げてやっていかないとバラバラになる。1回町内で子どものこともお年寄りも何かあると必ず町内会に来る。認知症だけでなく一人暮らし、目配り運動の中でどうやっていくか、これに特別こだわらなくても町長は役場の人も町内会に入ってもらおうと話していたと思う。地域福祉推進会を立ち上げてやっていけば進みが早いのではないかな。それでないとうまくいかないのでは。70人からの役場、社協の支援を得ながら地域によって温度差があるのは当たり前で人手がいる。全体を考えて町内連合会、町内から提案したい。

岩佐様 あかまつの里の岩佐です。いつもお世話になっています。私がケアマネージャー時代には担当している人が居なくなった人が居ます。そんな経験からSOSネットワークは素晴らしい考えだと思います。

佐藤様 フェニックスの入居者50名は自立が主であるため、一人で出かけて帰り道がわからない人もいます。中には不審者の区別がわからない人もいますのでどういうふうに行くか難しいです。

笠原様 7/12の模擬訓練は事業所さんが主体であるので役場としては、バックアップして行きたいと考えています。やっていって色々な問題点が解かる。それから考えて行きたいと思います。

釣谷様 SOSネットワークより早く発見するには人の目、人の手、人の力 いくら機械が発達しても大切です。いいものを育てて行くには皆様のご協力をお願いします。

興田様 衣服、名前、住所、尊厳、拒否の権利 ご協力をお願いしたい。悪質商法は課題です。公的機関の連絡が嫌だ、警察へ連絡、早く連絡、家族は苦慮する所です。60分のカリキュラムは難しいと思いますが、グループホームと関係なくご説明したいと考えています。その節は宜しくお願いします。子どもは逃げろ、電話は名を名乗るな、もしもだけ、実におかしい話ですが、そのようにせざるを得ない現状です。声掛けは古いと思われそうですが、新しい取り組みかもしれません、しかし、現実はそのままで行っていないのが現状です。これが正しいという社会にして行きたい。函信さん、日の出さんには、外回りの時には、是非お願いしたい、商店さんにはらしい人が居るという連絡対応をお願いしたい。
今日のご意見を踏まえて、こっちからのお願いとして、町内会としてやれること、民生委員さんにはどういう協力を頂けるのか、町内会、民生委員、団体固有の名前をお伝えしたいと思います。
来年度退職者は全員オレンジリングを取得して貰い、大沼保育園さんには送迎の中で見かけたらのご協力をお願いしたい。地域の中で自主的に行なっていきたいと思います、中村社長の提案は非常に良いことと思います。まずは、仕組みを作る事、明日産声を上げるので、それを育てるのは地域の人、何とか成功させていきたいと思っています。7/12検証、その中で一歩進めて行きたい。一人でも多くの目を増やすことが大切。声かけしてくれることによって、真剣に受け止めました。以上です。

中村 役場の皆さんは、身体を使って見ているのではなく、仲間に入って何年かかろうと、みんな

なの町、温かい地域に大きく育ってくればスタッフ109人お声をかけてくれれば、いつでも総動員いたします。

岡田 七飯の良い所を吸収し、少しでも長くお手伝いして、良い七飯町になるように努力させて頂きたい。お願い致します。

山村 お忙しい中、お集まり頂きありがとうございました。